

東北地方における農村環境計画策定等の策定過程と策定意識について(3)

On Decision Process and Conciousness such as the Rural Environmental Plan Decision in Tohoku Region (3)

○富樫千之¹・加藤 徹¹・田村孝浩¹・田口克己²・渡部 均²・畠山修世英²・相澤武文²

Chiyuki TOGASHI, Toru KATO, Takahiro TAMURA, Katsumi TAGUCHI, Shiyoe HATAKEYAMA, Takefumi AIZAWA

1. はじめに

農業農村整備事業を展開するためには、地域住民の多様な意向を踏まえつつ、農業農村の有する多面的な機能の十分な発揮や環境への配慮が必要となることから、環境に関する総合的な調査を踏まえつつ地域の整備計画を策定する「農村環境計画策定事業」や「田園環境マスタープラン」が実施されている^{1, 2)}。しかし、策定された「農村環境計画」等は必ずしも地域住民の意思が反映されず、内部のみで策定されたものもある。そこで、既報^{3, 4)}では既に計画を策定している35市町村(地区)へのアンケート調査等を実施し、実施地区の本事業の策定過程や本事業に対する意識等を把握した。本報ではさらに平成15、16年度に策定された東北地方12市町村(地区)へのアンケートに対する回答を加えて報告する。

2. アンケート内容

アンケート調査は、平成14年度までに「農村環境計画」と「田園環境マスタープラン」を策定した東北地方35市町村とし、その設問内容は次のとおりであった。なお、回答率は100%であった。

Q1 農村環境計画策定等の策定期間はいつですか Q2 農村環境計画等のキャッチフレーズは何ですか(複数回答) Q3 市(町村)の自慢は何ですか(複数回答) Q4 農村環境計画策定等に当たっての地域住民(受益者含む)の意見反映をどのように行いましたか(委員会の結成、アンケート調査、聞き取り調査、何もしない、等) Q5 策定した農村環境計画策定を広報しましたか、した場合はどのような方法でしましたか(市町村だより、掲示、回覧板、パンフレットを作成し配布、等) Q6 農村環境計画等の策定によって、現在実施中の農業農村整備事業の事業内容に変更はありましたか、あった場合その内容を教えて下さい Q7 農村環境計画等の策定によって、今後実施する農業農村整備事業の事業内容に変更はありましたか、あった場合その内容を教えて下さい Q8 前記以外に、環境に配慮した事業の実施例はありますか Q9 農村環境計画等の策定によって、地域活動が活発になりましたか、なった場合その活動内容を教えて下さい Q10 農村環境計画等が農業農村整備事業に活かせなかった市町村において、その理由を教えて下さい Q11 農村環境計画等の策定や農業農村整備事業に反映する中で苦慮されたことを教えて下さい

3. アンケート調査結果

図1に農村環境計画策定等の策定年度を示した。平成13年度をピークに減少する傾向であった。農業農村整備事業が減ったことと、市町村合併に時間が取られたためと考えられる。

A3(複数回答)・農林水産等生産物17, 自然環境48, 歴史・文化30, 経済立地9, その他11

自慢としては、良好な自然環境をあげる市町村が圧倒的に多かった。この際、具体的な山、川等の名をだす個別事例より、「自然豊かな田園」等の表現が多かった。

A4(複数回答)・常設委員会20(委員公募2(重複), 委員指名20), 住民へのアンケート調査29, 地域代表者への聞き取り調査11, 策定委員会の開催(1~2回)5, 何もしない2, その他10

住民へのアンケート調査は29と最も多く、次いで常設委員会の設置20であった。4つの意向調査で策定したのは2市町村(地区)で、ワークショップの開催は5にとどまった。(図2)

A5 広報した(策定した事実と内容の概略, 市町村だより, 作成パンフレットの配布等)のは11市町村(地区), 広報なし(本計画の基となる町のマスタープランが周知済み等)は36で、広報をしていない市町村(地区)が圧倒的に多かった。

¹ 宮城県農業短期大学・² 東北農政局農村計画部, 農村環境計画, 田園環境マスタープラン

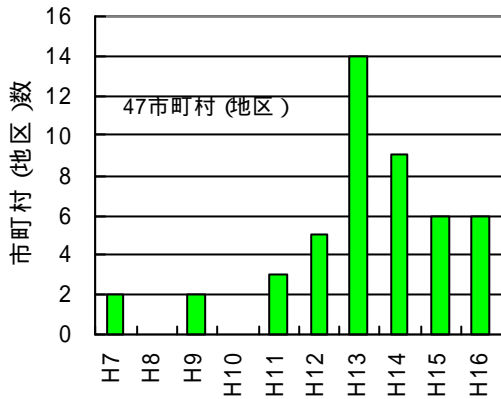


図1 農村環境計画策定等の策定年度

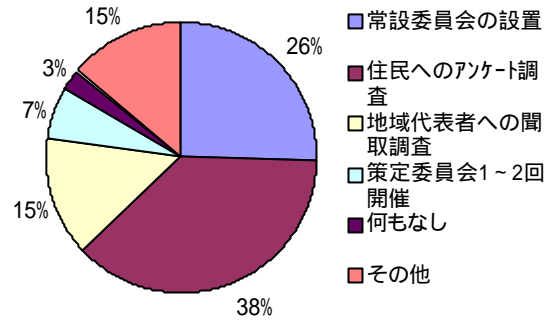


図2 策定への地域住民の意見反映方法

- A6 策定中に農業農村整備事業の変更はなかった40, 変更があった7。
- A7 策定後に農業農村整備事業の変更はなかった39, 変更があった8。
- A8 環境に配慮した事業の実施例がない24, 実施例がある23。
- A9 農村環境計画の策定等によって地域活動が活発になったと思わない33 思う14。
- A10 農村環境計画の策定等によって地域活動が活発にならなかった理由、無回答28(85%)。
- A11 自由意見 34の市町村(地区)から57の意見があった。策定過程での「意見の取りまとめ、環境の現状や特色の把握、地域住民の意向の把握、行政と地域住民の意識・意見の調整」の課題に対する20の意見、策定から農業農村整備事業の実施段階での「環境配慮工事の掛かり増し、施工後の施設維持管理」の課題に対する意見13、その他11であった。

図3にアンケート総合判定を示した。ポイントは、Q4の地域住民アンケートで各種意見反映の数(各1ポイント)、Q5の広報で各種広報の数(同)、Q6、Q7で環境配慮への事業変更、Q9の地域活性(各1ポイント)の合計ポイントとした。7, 8ポイントは2町で、平均は2.5、H7~14で2.4、H15~16で3.0ポイントであった。また、0ポイントの1町もあった。

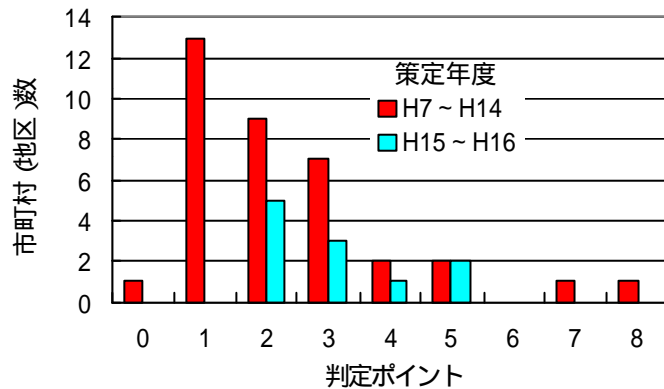


図3 アンケート総合判定

4.まとめ

アンケート調査によると、農村環境計画の目的や意義の認識が不十分なまま策定されたものも多くあるとともに、策定結果が農業農村整備事業に結びつく場合の経費、事業実施後の維持管理等の問題についての苦慮が認められた。

なお、本報告は、「東北農政局管内農業農村整備事業推進方策検討業務」^{3, 4)}として、宮城県農業短期大学と東北農政局農村計画部が共同で調査研究したものである。

引用文献

- 1) 富樫・外：農村環境計画策定等の策定課程と策定意識について、986-987、平成16年度農業土木学会大会講演要旨集、2004
- 2) 富樫・外：農村環境計画策定等の策定課程について 山形県高島町の事例を通して、農業土木学会東北支部第48回研究発表会講演要旨集、26-29、2004
- 3) 農業土木学会：平成14年度東北農政局管内農業農村整備事業推進方策検討業務報告書、113-145、2003
- 4) 農業土木学会：平成15年度東北農政局管内農業農村整備事業推進方策検討業務報告書、143-169、2004